

食事援助のポイント

子どもの意志に
添うタイミングで
子どもの口に合った
量を与える

ポイント1



口の中に食べ物が
残っていないか確認する



ポイント2

食べ終えて
席を立つまで見守る



ポイント3

食事前、食事中、
食事後、
汁物などの
水分を適切に
与える



ポイント4

気を付けたいこと

- 食べることに集中できない様子を確認したら無理に食べさせない
- 食べ物が口にある場合に笑わせたり、泣かせたり、驚かせたりしない(息と共に吸い込むリスクがある)
- 食事前に保護者や職員間で子どもの食事に関する情報を共有する
例: 食べるための機能や食事に関する行動の発達状況、当日の健康状態など
- 子どもの年齢月齢によらず、普段食べている食材が窒息につながる可能性があることを認識する
- 球形・かたい・粘着性が高いといった形状や性質の食べ物は避ける
過去に事故が発生した食材の例: ナッツ・豆類(ピーナッツなど)、ミニトマト(プチトマト)、白玉団子、ぶどうなど



参考資料: こども家庭庁「教育・保育施設等の職員向け こどもの重大な事故を防ぐためのポイント ねる・たべる・みずあそび」